

環境と人間

森林・里山と人間

日時：平成25年7月28日（日） 13:00～15:00

講師：只木 良也（京都府立林業大学校長・名古屋大学名誉教授）

概況



科目 環境と人間 森林・里山と林業の現状

森林は、降水量と気温によって育まれる。森林が成立する条件が整っている地域は、世界の陸地面積の約30%に過ぎない。日本は、放っておいても森林が成立するので恵まれた地域であると言える。愛知県は、気温からシイ、カシなどの暖温帯照葉樹林が成立する地域である。

名古屋が栄えた理由としては、木曾川が濃尾平野に流れ込んでいることに負うところが大きい。木曾川の豊かな水が農業、工業を支えてきた。また、上流域には豊かな森林があり、木曾ヒノキが、この地域の財の基礎を築き、技術と文化を育んだ。

里山は、農用林として利用されてきた森林である。また、距離的には、日帰りで往復できる範囲くらいまでにある森林を指すと考えられる。現在、里山はほとんど利用されていないが、新しい時代の利用法を見つけることが必要である。里山の意義は数量的に表現することは困難であるが、社会資本としての位置づけや都市に必要な施設としての位置づけが欲しいと考えている。